

租税教育実践発表会資料

石巻市立稲井小学校

教諭 千葉 孝洋

1 はじめに

稲井小学校は昭和56年に大瓜小、稲井小、真野小、金山小の4校が統合して開校した。そのため、学区は広く、児童は集団登校するか、スクールバスで通っている。学校の周りには山や田に囲まれた、自然豊かな学校である。

本学級は、男子13名、女子12名、計25名で構成されている。グループでの学び合いの際に、自分の考えを筋道立てて説明できる児童が多い。一方で問題に対する自分の考えがもてなかったり、気づきや考えを自分の言葉でまとめられなかったりする児童も見られる。授業が積極的に発言する児童中心に進んでしまうことから、ペア学習やグループ学習を取り入れ、少人数で自分の意見を発表し、自信をもたせるようにしてきた。また、身近な事象に対して興味をもつ児童が多いため、税金でスクールバスが運行されていることや、昔は稲が税として支払われていたことに触れ、興味関心を高めていきたい。



2 指導に当たって

社会科学習指導要領解説 P105 において、『『租税の役割』については、租税が国や県、市によって行われている対策や事業などの費用として使われていること、それらは主に国民によって納められた税金であることなどを理解できるようにする。』『税金が国民生活の向上と安定に使われていることを理解できるようにする必要がある。』とある。税金は国、県、市がそれぞれ集め、国民のための政策として使われていることを指導していく。

また、租税教育を行う上で、社会科の学習についてのアンケートを実施した。結果は以下の通りである。

- 1 社会科を学習することは好きですか。
好き（8人） どちらかというとき好き（10人） どちらかというとき嫌い（5人） 嫌い（2人）
- 2 どんな種類の税金がありますか。知っている税を書きましょう。
消費税（25人） 住民税（5人） 所得税（2人） 自動車税（2人）
- 3 税金は何をするために使われているのでしょうか。
道路工事（6人） 公園（5人） 公務員関係（5人） スクールバス（3人）
図書館（3人） 学校関係（2人）
- 4 税金は必要だと思いますか。
思う（5人） 思わない（20人）

社会科の学習に対して意欲はあるが、税金についての知識は少ない。知っている税金や、税金が何に使われているかについても、児童にとって身近な知識のみであった。よって、税金があると損をすると感じてしまい、税金は不要であるとする児童が多いという結果になった。税金がどんなことに使われているのかを調べ、もし税金がない場合、どのような生活となってしまうのか考えさせていきたい。

以上のことを踏まえ、次のことを学習課題として設定し、取り組ませていく。

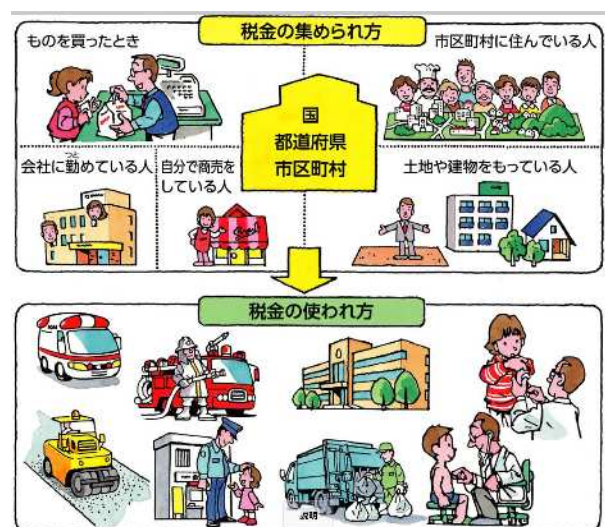
- （1）税金にはどのような種類があるか。
- （2）税金は誰が集めているのか。
- （3）税金は何に使われているのか。
- （4）税金がなかったら、どのような生活になるのか。

3 実践

○第1時「2. 国の政治のしくみと選挙（2）選挙のしくみと税金の働き」

税金の働きについて授業を行った。教科書を用い、税金の仕組みや税金の種類などについて指導した後、タブレットや社会科資料集を活用して、どんな税があるか、税金がどんな使われ方をしたのか調べる時間をとった。児童は日本だけでなく、外国の税金にも興味をもち、まとめる姿が見られた。そこで、日本と外国の税金の違いから、税金はその国の文化によって変わってくることに気付かせた。

NHKforschool「社会にドキリ 権利と義務」の動画から学習のまとめを行い、これから税金はどのようなことに使っていくべきか考えさせた。



東京書籍 新しい社会 政治・国際編 P27 より



NHK for school「社会にドキリ 権利と義務」

○第2時 租税教室

社会福祉法人の方をお招きし、「租税教室」を実施した。学習目標は、国や県、市によって行われている社会保障、災害復旧の取組、地域開発などに必要な費用は租税によってまかなわれていること、それらは国民によって納められていることを理解し、租税が大切な役割を果たしていることを考えることができるようにすること、税金が国民生活の向上と安定に使われていることを理解できるようにすること、である。それを受けての学習内容は以下の5点である。

- 1 税って何だろう
- 2 税の種類と使われ方
- 3 小学生一人あたりに使われる税金
- 4 税金はなぜ必要か。税金のない世界から考えること (DVD視聴)
- 5 一億円はどれくらい

事前に調べたこともあり、1、2について児童はうなずきながら聞いていたが、3、4については驚いた様子だった。5は本当のお金を持った気分になり、興奮した児童が多かった。

この租税教室の後にアンケート調査をし、児童



の変容を見たところ、税金は必要だと答えた児童は25名全員だった。その理由については、

- ・税金がないと面倒なことになる。
- ・たくさんのことに税金が使われている。
- ・道路や公共施設など、役立っている。
- ・税金で国が成り立っている。
- ・税金がないと、逆に損をする。

など、事前に比べて、深まりが見られた。

4 成果○と課題●

○税に関しての興味関心が高まった。

○税の大切さを知り、税はなくてはならないと実感した児童が全員だった。

○将来、税がどんなことに使われると良いか、考えるきっかけとなった。

○税に対しての関心や知識を高めていくために講師を招いて租税教室を実践するのは有効であった。

●租税教育の指導計画は少ない。租税教室を盛り込んだ計画を前もって立て、各学校での計画に位置付けられるようにしていく必要がある。

●租税教育は4月末から5月上旬の間に指導するため、指導計画を作成するには時間が少なかった。